

『人間図鑑 みんなのちがい 体や生活や考え方など
あらゆる人間のちがいを集めた図鑑』
間芝 勇輔 // 絵 いろは出版 // 編著
いろは出版



あなたの考える「当たり前」、誰かにとってはちがうかも！？髪の毛は黒色？茶色？勉強するのは自分のため？誰かのため？恋愛は怖いこと？誰もが自分と周りの人を比べたことがあるはず。この図鑑では、姿かたちや生活、感じ方、考え方など、あらゆるちがいをイラストとともに紹介しています。

遠い国の人はもちろん、身近にいる家族や友達と「同じじゃないこと」を楽しんでみてください。

『天オルーシーの計算ちがい』

ステイシー マカナルティ // 著 田中 奈津子 // 訳
講談社



8歳の頃に雷に打たれたルーシーは後天性サヴァン症候群になり、12歳で大学にも進学できるほどの数学の天才になる。その反面、周りの子と同じ行動ができず、学校にも行けなくなっていた。そんな孫を心配した祖母が、ルーシーに課題を出す――。

「普通じゃない自分」に悩むルーシーが壁を乗り越えようとする様に目が離せません。

『かくれ家のアンネ・フランク』

ヤニー ファンデル モーレン // 作 西村 由美 // 訳
岩波書店



ナチスによる暴虐にさらされ、家族全員かくれ家で生活することになったアンネは、日々の生活や考えたことを自由に日記に綴りました。楽しいこと、つらいこと、家族には言えない恋の話…。書くことが、暗いかくれ家での光でした。

アンネの幼少期から収容所での死までが、近しい人々の証言をもとに鮮やかに描かれています。章ごとに導入があるので歴史に詳しくなくても楽しめます。

図書館おすすめブックリスト

2020年11月発行

編集・発行 砺波市立図書館



ココロふるえる本との出会いで ハートフル充電!!

No. 12 人生クリエイト! 青春編
(中・高校生～)

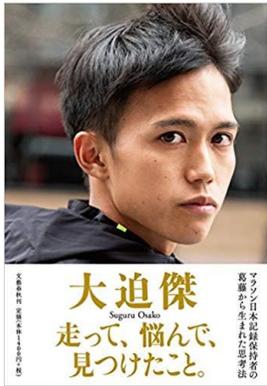
『ふるさとって呼んでもいいですか』

6歳で「移民」になった私の物語

ナディ // 著
大月書店



父親の「出稼ぎ」のため、家族5人で来日したイラン人少女ナディ。学校に通う事が出来ない、健康保険に入れないなど生活は辛く、強制送還の恐怖を感じながら青春を過ごします。この本は、周囲の援助に支えられながら奮闘する彼女の言葉が、移民の視点で綴られた手記です。「私のふるとは、日本です。」という、ナディの想いが溢れる一文に強く心を揺さぶられます。



『大迫傑 走って、悩んで、見つけたこと。』
大迫 傑 // 著
文藝春秋

大迫傑、1991年東京生まれ。2020年の東京マラソンでは、自身が持つ日本新記録を更新しました。自伝となる本著では、彼が大切にしてきた「自分の道を選ぶこと」「意思を持ち続けること」などの考え方が書かれています。

走る中で辛く悔しい思いをすることも多いが、それを乗り越えるための答えもまた、走り続ける中で見つけたという大迫選手。真摯にマラソンと向き合う姿が印象に残ります。

『イモムシ偏愛記』

吉野 万理子 // 著
光文社

虫嫌いの家庭で育った凧が、ひょんなことからイモムシを育て手伝いをする事になった！イモムシのことを教えてくれるのは大好きなアイドル“ヒカル”の祖母。ヒカルに近づきたい下心から引き受けた凧だが…あれっイモムシって可愛いかも？

今まで避けていた虫や生き物とのふれあいによる心の変化は、友達や家族など周りの人との関係も変えていきます。読後感さわやかな青春ストーリーです。



『名作裁判 あの犯人をどう裁く？』

森 炎 // 著
ポプラ社

『容疑者Xの献身』『悪人』など、犯罪をテーマにした小説や映画の名作に登場する犯人は、現実世界で裁判にかけられたとしたら、どんな罪になるのか？元裁判官の著者が実際に判決を下し、その解説をしています。小説『悪人』の犯人は、著者の見立てでは、死刑の一步手前、つまり無期懲役刑が妥当という。10代から学べるやさしい裁判入門書です。



『「お手伝いしましょうか？」
うれしかった、そのひとこと』
高橋 うらら // 文 深蔵 // 絵
講談社

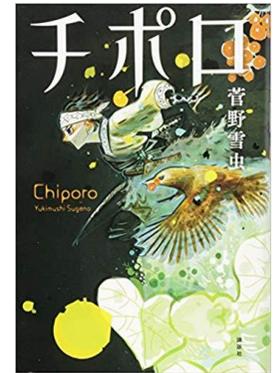
街で出会う外国人や体の不自由な人、お年寄りやベビーカーを押す人。何か困っているようだけど、どう声をかけていいかわからない…そんな経験ありませんか？助けてもらった人からのメッセージや手助けの方法が、イラストや写真で紹介されています。知っていることで、誰かの「ヘルプサイン」に気付いて声をかけることができるかもしれませんね。

『チポロ』

菅野 雪虫 // 著
講談社

スラム・コタンの少年チポロは、魔物にさらわれた幼なじみの少女イレシュを連れ戻すため、さいはての北の町へ旅立つ。亡き父の霊送りの矢と、ミソサザイの神さまを道連れにして一。

自然に宿り人の世を見守る神々の、厳しさとやさしさが物語を包んでいます。誰もが抱える生きる孤独と、誰かに寄り添うあたたかさを知る、アイヌ神話を元にしたファンタジーです。続編『ヤイレスーホ』もあり。



『動物たちが教えてくれた
「良い生き物」になる方法』

サイ モンゴメリー // 著 古草 秀子 // 訳
河出書房新社

著者は世界を飛び回り活動している、米国在住のナチュラリスト。そんな著者には人生を大きく変えた動物達があります。記者から転身するきっかけとなったエミュー達や、家族の一員として皆を癒した豚のクリストファーなどです。動物たちは、著者にとって大切なことを教えてくれました。

彼らとの出会いと別れの日々を温かく描いた、動物への愛情あふれる作品です。

